

**今日のトピック** 堅調に推移する豪州経済（2018年6月）

**高水準にある企業景況感指数、生産・雇用は拡大を続けよう**

**ポイント1 改善傾向の企業景況感**

**雇用も増加の勢いを強める見通し**

- 2018年5月の雇用者数は、短期の変動を均したトレンド値で見て前月比1.6万人増となり、前月の同1.3万人増から小幅ながら伸びが拡大しました。
- 企業の景況感指数が改善基調にあること、その水準も高いこと等から判断すると、17年半ばからの雇用の調整局面はほぼ一巡したと考えられます。
- 個人消費も緩やかですが、持ち直してきました。小売売上高は17年10月の前年同月比1.9%増を当面のボトムに、直近18年4月の同2.6%増まで伸び率を高めています。

**ポイント2 金融政策は中立を維持**

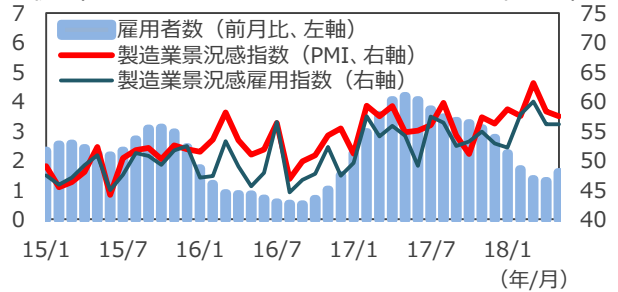
**景気は堅調だが、物価は低位で安定**

- 豪州準備銀行（RBA）は、6月5日に開催した金融政策決定会合で政策金利を1.50%に据え置きました。
- 声明文では、「18年、19年の経済成長率は平均して+3%を上回る」との前向きの見方を維持しました。景気は堅調ですが、「物価は当面、低い水準で推移する」との見通しも変わっていません。賃金の伸び悩み等のためです。こうした状況を踏まえると、政策金利は当面、現状維持が予想されます。

**今後の展開 豪ドルは堅調に推移しよう**

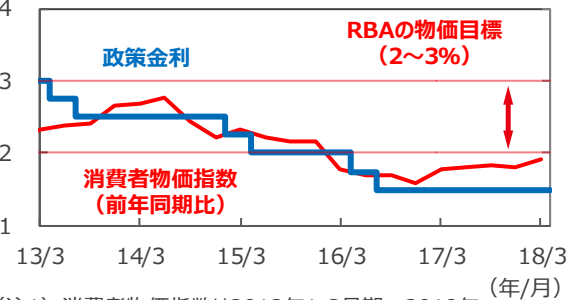
- 足元の豪ドルの対円相場は、揉み合いの展開となっていますが、豪州の景気が堅調に推移していることや、基調として豪日間の金利差が広がりつつあること等を踏まえると、豪ドル相場は今後、底堅い推移が見込まれます。

【豪州のPMIと雇用者数】



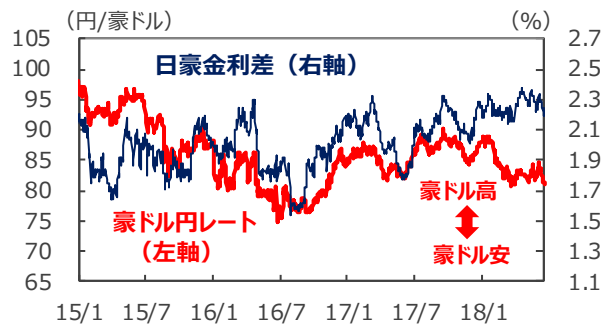
(注) データは2015年1月～2018年5月。雇用者数はトレンド値。  
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【消費者物価指数と政策金利】



(注1) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2018年1-3月期。消費者物価指数はトリム平均値。  
(注2) 政策金利は2013年3月31日～2018年6月21日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【豪ドルの対円レートと日豪金利差】



(注1) データは2015年1月2日～2018年6月21日。  
(注2) 金利差は豪州－日本。金利はともに3年国債利回り。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここもチェック!** 2018年6月19日 米国FOMCの最新『ドット・チャート』は？（18年6月）  
2018年6月 6日 良好な豪州経済（2018年6月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。